

出るといふべし、されば此邊の人は他國にて田地山林などを持て家督とする如く、此池一つも  
てる人は、毎日五貫拾貫の錢を得て、殊に人手もあまた入らず、實に永久のよき家督なり、此ゆゑ  
に池の賣買甚貴し、今年も油よく湧池一つ拂物に出たりといひしま、いかほどの價にやと尋  
しに、金五百兩なりしといふ。○中略

一 錬膚カマイタナといふことあり、是は越後の國中にいづれの所にも折節有る事也、老少男女の差別なく、  
面部又手足部を太刀にて切りたる如く、おのれと切るゝ事なり。○中略此事越後にも限らず、奥州、  
出羽、佐渡などにもありといへば、北地陰寒の瘴毒、人にあたるにやといふ。○中略

となり、

一 逆様竹サカサマダケは、むかし親鸞上人此國へ配流の時、携へ來り給ひし杖を、さかさまに地にさし、我說所  
の法、世に弘らば、此杖の竹再び榮ゆべしといひ置給ひしに、其杖さかさまながらに枝葉しげり、  
其後其根に生ずる所の竹皆逆様なりしとなり、今は其跡のみ鳥屋野トリヤマといふ所に残れり、  
一八ツ房の梅は、文田ブンダと云所にあり、一つの臺に花實八ツ咲みのる不思議のものとて、もてはや  
せしに、近き頃は座論梅ザロンバイとて、上み方にも多くなりぬ、是等をあはせて七不思議とはいふなり、

### 〔北越奇談〕七奇辨

越後に古より七不思議といへることあり、今尙諸方の遊客好事の人此國に尋來て其奇を探ん  
とす。○中略近世諸家の記行に載る所、各其名目に別異ありて、論說する所も又おなじからず。○中略凡諸家の雜記記行にあぐる所と、國人家々に論說する所を合せ見るに、今尙二十有四奇あり、

・神樂嶽の神樂

海鳴

胴鳴

燃土

七ツ法師八ツ瀧

白兎

鍊膚

火井

鹽井

燃水